

令和3年度「先進的省エネルギー投資促進支援事業費補助金」  
「先進事業」における『先進設備・システム』応募申請書

様式7-1

公開用概要書

【製造会社情報】

\*: 入力必須項目

メーカー名(*)	三浦工業株式会社
本社所在地(*)	愛媛県 松山市 堀江町 7番地
製品名(*)	水素燃料ボイラ (貫流ボイラ)
型番	SI-2000 ■■-H2, AI-2500 ■■-H2, SU-250 ■■-H2
会社WEBページURL	https://www.miuraz.co.jp/
製品紹介ページURL	無し

【製品についてのお問い合わせ先】

連絡先(*)	三浦工業株式会社 熱利用事業推進統括部 〒108-0074 東京都港区高輪2-15-35 三浦高輪ビル1F TEL: 03-5793-1060 FAX: 03-5793-1040
--------	--

【登録設備情報】

導入可能な業種・分野 (複数回答可) (*)	化学工業	石油製品・石炭製品製造業	その他製造業
省エネ化の対象となる分野・プロセス(*)	蒸気発生プロセス		
1工場・事業場当たりの想定省エネ率(*)		27.0	%
1台又は1式当たりの想定導入価格(参考) (*)		81,000,000	円
(必要な場合) 保守・メンテナンス等の年間ランニング費用		800,000	円/年

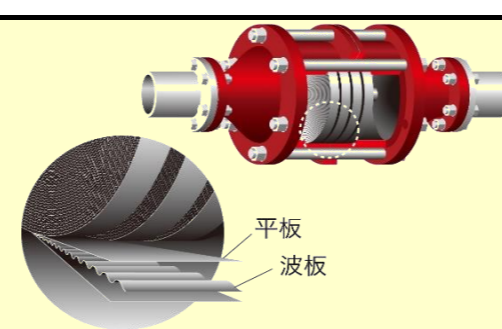
製品・システムの概要(\*)

水素は燃焼時の生成物が水のみであることから、CO2排出ゼロのクリーンエネルギーとして注目されています。2050年の温暖化ガス排出量実質ゼロを目指す脱炭素社会の実現に向けて、水素は重要なエネルギーと位置付けられており、様々な分野での水素利活用が期待されています。その一翼を担う機器として、ミウラでは広く産業用熱源として利用されている貫流ボイラでの水素利用について開発を行い、100%水素燃焼(水素専焼)が可能な貫流ボイラを商品化しました。



先進性についての説明(\*)

水素は非常に燃えやすく、燃焼速度の速い気体であるため、ボイラ燃料として利用するにはその特徴を踏まえた安全対策が必要となります。例えば、水素は燃焼速度が速く、燃料配管中を火炎が戻る「逆火」と呼ばれる現象が懸念されます。水素ボイラではこの逆火現象を防止する装置を燃料配管中に取り付けて、火炎が戻らない構造としています。

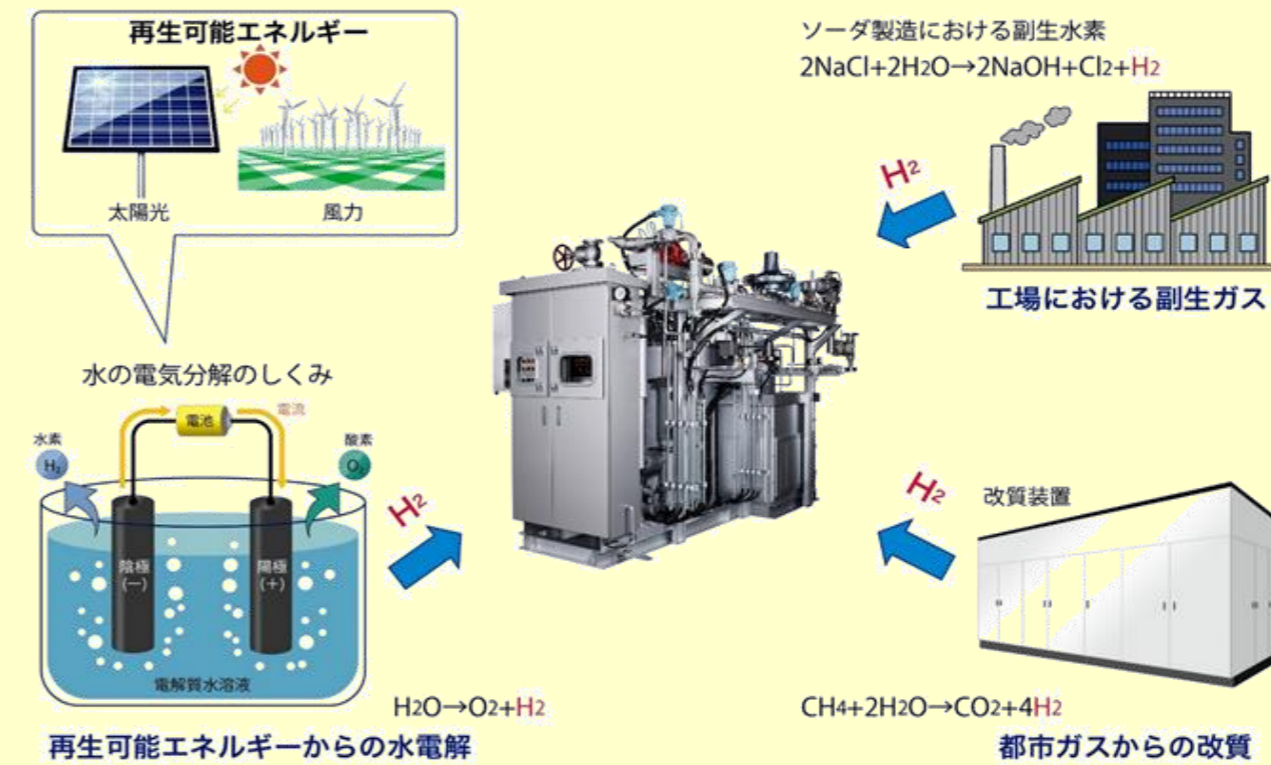


様式7-2

製品・システムの概要・イメージ図(\*)

\*: 入力必須項目

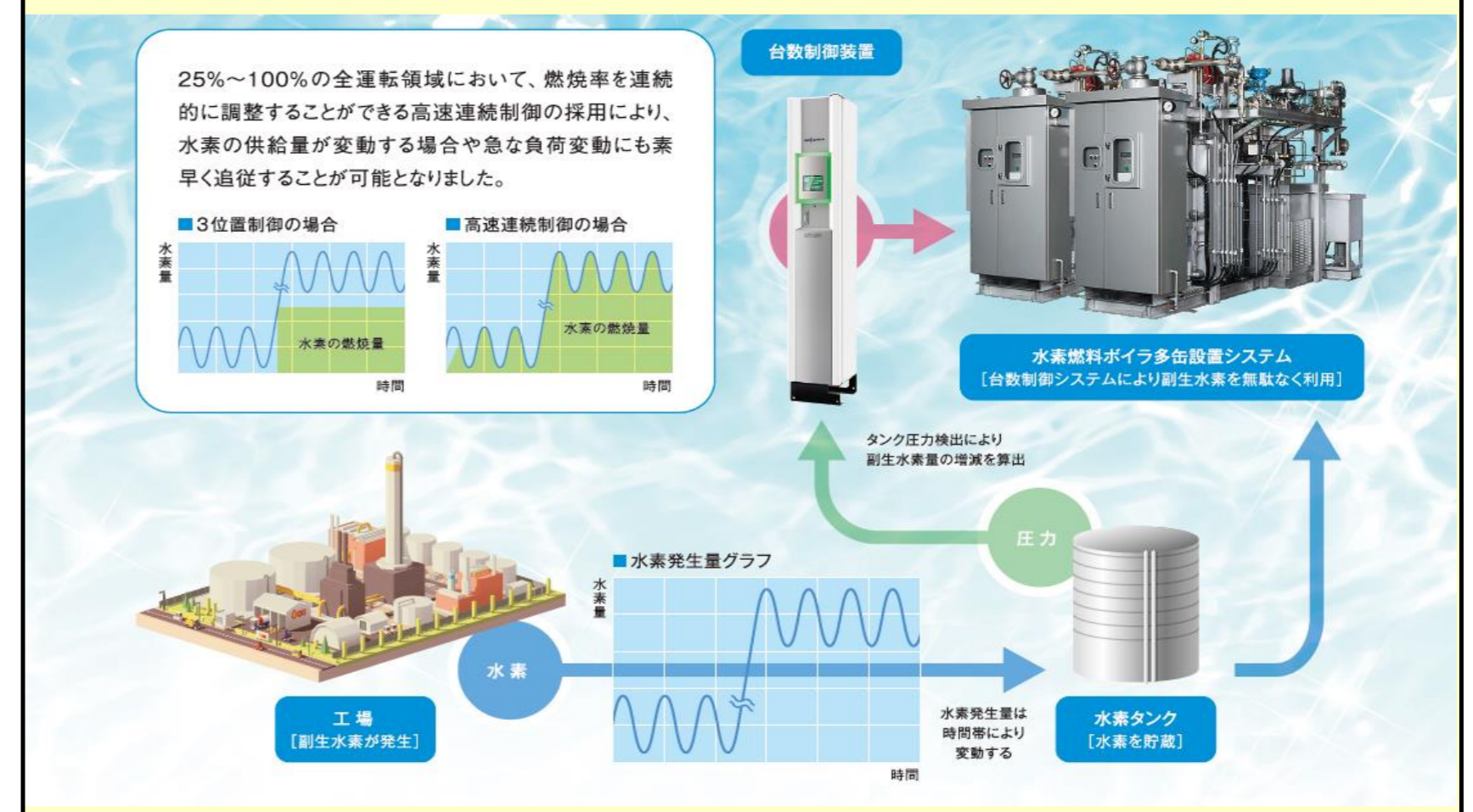
水素は様々な1次エネルギーから製造することが可能であり、特にソーダ業界や石油化学業界では製品製造における副生ガスとして水素が発生します。これらの副生水素をボイラ燃料に利用することで、既存燃料の使用量を削減することが可能となります。また、2050年カーボンニュートラルに向けて脱炭素の観点からCO2フリーな水素(再生可能エネルギーからの水素製造など)の利用が増えると考えられ、脱炭素時代の熱源として水素燃料ボイラの導入をご提案します。



導入事例の概要・イメージ図(\*)

業種・分野	化学工業	対象設備・プロセス	蒸気利用設備
-------	------	-----------	--------

化学工場などで副生水素が発生しているが有効な活用方法がなく、使い切れていない場合に、本製品を納入して水素から蒸気を作ることによって、既存の蒸気発生装置の燃料代を削減できるだけでなく、大幅なCO2削減も可能となります。



導入事例の省エネ率	26.9	%	導入事例の省エネ量	692.4	k1
-----------	------	---	-----------	-------	----